

芸能活動

20周年特別企画!!



リスタートだあ! 時東あみ

2005年「ミスマガジン」つくくゞ賞を受賞し、
 “元祖・メガネっ子アイドル”としてデビューした時東あみさん。
 2025年には芸能生活20周年を迎え、10年ぶりのグラビアとなる
 記念DVD「20th aMI」を発売し大きな話題を提供するなど、
 昨年は多忙なメモリアルイヤーとなりました。
 今回は芸能活動と併せ、防災士としてもメディアやイベントで
 活躍中の時東あみさんに、20年の活動の軌跡と
 自身の未来像を語っていただきました。

つくくゞさんとの出会いがすべての始まり。

昨年は芸能活動20周年で記念DVDを発売し、ボディコンテスト入賞経験もある鍛え上げられた美ボディも話題になりました。

時東:2025年の記念DVDは「ファンの方への恩返し」を込めてリリースしました。ミスマガジンのつくくゞ賞を受賞してデビューしたのが2005年。デビューから約10年はグラビアをメインとした芸能生活で、今回のグラビア撮影は10年ぶり。並行して新曲も2曲配信したりメモリアルな一年となりました。どの仕事も、20周年という節目に原点を見つめ直し、現在の自分を表現した作品となりましたね。

芸能生活がスタートしたのは、17歳、高校3年生の時でした。

時東:当時は「将来はお年寄りや体の不自由な方にスポーツを教える仕事がしたい」と体育大学への進学を考えていました。所属する会社からは「体育系の大学は、体調の管理も難しいから学生生活と芸能生活の両立は厳しいかも」と言われ、進学は諦めました。ただ、私がスポーツを教える仕事をしたかったことを知ったつくくゞさんが、「人助けが好きならこんな資格もあるよ」と教えてくれたのが防災士だったんです。当時、防災士は全国で2万人ほどしかいなかった時代でしたが、私が資格を取得したのは2007年で19歳の頃でした。グラビアでファンになってくれた方が多い私にとって、10年前にグラビアを卒業したのは大きな決断でしたが、この10年で防災士の資格がグラビアに代わる強い武器になってきています。

防災の知識をアップデートすることも努め。

時東:防災士の資格を取得するには2日間の講習を受けなくてはなりません。ただ、自分にとってはその学びは面白くもあり、本当に有意義な時間となりました。講義では、ひとたび地震や水害など自然災害に遭うと多くの犠牲者や

被災者が出ることを目の当たりにします。有事の際に、防災の知識がいかに社会を助けることに貢献するか、被害の規模を低減させる＝「減災」に繋がれるかを座学等で学びました。そうした防災の知識や技術を磨けば、地域や家族など多くの人を助けられるし、ファンの方だって助けられるし、学べば学ぶほど防災士って、勉強のしがいのある資格だと19歳の時に気付かされたんですね。**防災士の資格を持つ芸能人として、時東さんの新しいチャプター(章)が開かれたわけですね。**

時東:もったいないと思うことがあって、防災士の資格取得がゴールになってしまっている人が多いこと。私としては、防災は学び続けたいといけないうジャンルだと思っています。気候変動に起因する災害は日本だけでなく地球規模で発生しているし、災害の種類や規模も、頻発の度合いも近年は大きく異なってきました。大学への進学を諦めた分だけ、学習意欲はまだまだ貪欲なので、知識のアップデートにも一生懸命取り組んでいるところです。

情報を発信することが、防災士、時東あみの仕事。

今後取り組んでみたいことは？

時東:自分でイベントを企画して、防災キャラバンなどで全国各地に何うことも多いのですが、楽しく防災を伝えるためのアイデアも湧き出てきているので、それをカタチにしていきたいですね。自分のラジオ番組やメディアの中で、防災関連の方をゲストスピーカーとして招いて番組を充実させたり、情報の発信力を高めたり、もっともっと多くの方々と一緒に組んで活動の幅を広げていきたいですね。生活者目線、母親目線を大切に、エンタメの部分も加味しながら、防災情報を噛み砕いて伝えていくことが、防災士としての、これからの時東あみの仕事だと思っています。



防災に関する
話題や情報を
放送中!!

時東あみの防災士RADIO
渋谷クロスFM 93.8MHz
第2水曜 17:00-17:50



【公式】
Instagram



BOUSAI
キャラバン
Instagram



【公式】
YouTube



時東さん×ヒイラギ
特別対談は
次のページにて公開!

ザ・フォーカス! 「危険物倉庫」

防災力最前線 特別対談

特許取得の製品性能と優れた設置性、使用性、コンパクト性を誇る、ヒイラギの危険物倉庫・保管庫。全国の公的機関でもその魅力は評価されています。



時東あみさん
×
株式会社ヒイラギ



東日本大震災を機に、危険物倉庫への認識が一変。

時東: 私は防災士の視点で、全国各地の消防機関等に導入されたヒイラギ製の危険物倉庫を取材させていただきました。今日は、改めて御社の創業期のお話を含め、危険物倉庫等の設計・製造を手掛けてこ



れた経緯、機能や役割といった製品特性についてお伺いしたいと思います。

終山: 当社の創業は昭和44年。危険物施設の設計事務所として消防法で定める危険物施設の貯蔵、取扱、製造設備の設計を主たる業務として社業をスタートしました。それら消防法に基づいた設計のノウハウをフルに活かし、エネルギー貯蔵製品としてタンクや貯蔵庫の商品化に着手したのが50年ほど前。現在では国土交通省、法務省、文科省、防衛省、環境省などの公共施設はもとより警察、消防機関、病院、学校、自治体、工場や宿泊施設、農園、集合住宅など多方面に製品を納めてまいりました。危険物倉庫は、自然災害の甚大化、頻発化と相まって、有事の際は燃料の確保と供給、平時においても危険物を安全・安心に貯蔵・保管できる信頼性を有することから、社会を支える重要な設備の一つとして認識されるまでになりました。

時東: 御社の今日の業容拡大においては、やはり東日本大震災が大きなターニングポイントとなったのでしょうか。

終山: そうですね。危険物の貯蔵への意識や重要度は明らかに変わりました。それまでの危険物貯蔵はもっぱらボイラー用の燃料を保管する設備という認識だったと思います。そこにあの震災が発生して、社会は大規模な停電やガソリンの供給不足も体験し、緊急時の電力確保において発電機用の燃料貯蔵の重要性がフォーカスされました。燃料を安全に保管するのが危険物倉庫の役割であり、需要の高まりは、社会生活の基盤を維持するものとして必然だったとも言えますね。



時東: 開発までのハードルはやはり高かったのでしょうか。

終山: 設計、仕様の決定を経て危険物倉庫の基本モジュールの完成・商品化までに6年ほど要しました。

時東: 製品化にあたって、ヒイラギさんならではの着眼点についてはいかがでしょう。危険物倉庫という特殊性もあると思いますが...

終山: 当時、サイズの大きなユニットは他社製品ではありましたが、当社でも開発初期の設計段階では、倉庫内に人が入れるプランもありましたが、時代が求めていたのは、小型、小規模のモデル。設置スペースに限られているユーザーも多かったのも、そちらに開発を注力していきました。危険物を安全に保管したいけど、倉庫を設置する場所がない、あるいは狭い場所しか設置できないケースも多く、根気強く、丁寧に現場のニーズを汲み取りながら製品力アップに努めていきました。

ユーザーの現場ニーズに、満点で応える危険物倉庫を。

時東: 危険物倉庫の設置を検討するユーザーに対して、現場が持っているニーズの正確な把握は、製品化では大事なタスクですね。

金井: 営業課としては、「倉庫の坪数は大きいけれど、大して容器が入らないね」という現場の声を収集から始まり、さまざまな視点で危険物倉庫に求められるファクターを洗い出していきました。主な意見として、「外から見ると大きい倉庫でも実際に収納できる量が少ない」、「倉庫内に動線(人が通るスペース)が必要だし、危険物の倉庫内での荷下ろし作業が危険」という貴重なご意見を収集でき、商品化や機能強化にあたって開発チームにフィードバックさせていきました。

時東: ユーザーの声に、根気強く応えた結果が、省庁や自治体、警察や消防、病院、学校など公共施設へのヒイラギ製危険物倉庫の納入実績に現れているのです。ここからは、製品のアピールポイントを存分に話していただけたら、と思います。



杉田: まず、耐震性スチール棚を標準装備している点が、当社の危険物倉庫のメリットです。丈夫で頑丈ですし、また、お客様の声を反映して内部配線を目立たないように製造しているため、容器の出し入れがしやすく、すっきり効率的に収納できるよう配慮した結果です。

時東: 他社製品との違いがあったら教えてください。

杉田: コンパクトな設計のため、設置をする際にフォークリフトによる荷下ろしができること。この利便性も評価されています。またハンドフォークで移動できることは、省スペースに設置できる当社の倉庫の本質的な機能に加えてユーザーファーストと言えるメリットだと思います。あと、好評をいただいているのが、見た目の倉庫感がない洗練されたスマートな外観です。「仮設倉庫や現場事務所のイメージを持つ設備なら、できれば置きたくない」という声にもしっかり答え、見た目の倉庫感をなくし、周囲の建物に馴染みやすいデザインにこだわりました。



前列左より株式会社ヒイラギ 代表取締役 終山 浩幸氏、時東あみさん、杉田 渉氏(営業1課)、後列左より川邊 雅之氏(営業1課)、金井 良平氏(営業1課)。同社内にて対談を前に撮影。



現地で荷下ろし後、設置場所までハンドフォークで容易に移動でき、据付工事もスムーズに行えます。

消防署から求められる必要要件をほぼ標準装備している安心と信頼性。

時東: 現場では、どのような業種からの問い合わせが多いのでしょうか。

川邊: ヒイラギ製の危険物倉庫は、特殊引火物を除く第四類引火性液体の指定数量未満の危険物貯蔵を想定しています。第四類にはガソリンや軽油、灯油、アルコール類などがあり、現在取り扱っている、あるいは今後取り扱う計画がある多くの公的機関、企業様より多くの問い合わせをいただいています。当社がご用意している少量危険物倉庫シリーズ(特許取得済み)は3つのラインナップがあります。その中でも特にGSA-200は保管基準の厳しい危険物第四類第一石油類(ガソリンなど)の要件をクリアした少量危険物備蓄ユニットとしてご好評をいただいております。災害の多い近年は、BCP(事業継続計画: 災害時などの緊急事態において、企業が被害を最小限に抑え、重要な業務の停止を避ける施策)や安全管理の観点から公的機関はもとより一般企業でも採用されています。

ビッグサイトで開催された産業防災展2026で来場者から高い関心が寄せられた危険物倉庫。

時東: 1月の東京ビッグサイトでの「防災産業展2026」にヒイラギさんも出展されました。防災・減災によるレジリエンス社会(災害など有事からの社会の復元力)がテーマでしたが、来場者の危険物倉庫への関心が高かったことを現場取材でも感じました。ヒイラギ製危険物倉庫が選ばれる理由は何でしょう。

川邊: 営業担当者全員が危険物取扱者(乙種第4類)の有資格者であることが安心材料になっていることかなと思います。お客様のお悩みやお困りごとに対し、消防法の観点から的確にアドバイスさせていただいておりますが、今後もさまざまなご用命にお応えしていきたいですね。



時東: 防災士として活動する中で、危険物倉庫が果たす有事の役割の大きさを実感してきました。消防署をはじめ公的機関での導入が進んでいる危険物倉庫ですが、生活者目線では災害に備えて地域の中核となる避難所や防災公園内でも設置が進むと、いざという時に貯蔵した燃料をすぐ使えますし、多くの市民に安心・安全を提供できますね。

終山: 弊社の危険物倉庫は消防法に基づく安全性を確保するとともに、高い収納力、使いやすさ、そして堅牢で美しい外観を兼ね備えており、社会のさまざまな場面で貢献できるものと確信しております。また、先人たちの英知である消防法の精神を尊重し、その趣旨に沿った製品開発に今後も取り組んでまいります。

危険物倉庫・保管庫 シリーズ

Introducing a Safe Oil Warehouse

耐震スチール棚 付の 少量危険物ユニット倉庫 だから 最高レベルの 省スペース化 を実現

特許取得

お問い合わせは
048-738-2300

〒344-0023 埼玉県春日部市大枝 761-1
URL <https://www.tank-hiiragi.co.jp>
E-mail info@tank-hiiragi.co.jp

CREATING OIL STORAGE TANK MAKER
株式会社 **ヒイラギ**